

令和2年度 東京都立秋留台高等学校全日制課程 学校経営報告

校長 河野 浩二

今年度の取組目標の成果と課題

(1)教育活動の目標と方策

項目		成果、課題、改善策等
学習指導 (自立活動)	① アキルスタンダードにより、生徒の実態に即した授業計画において、教科で育成すべき資質、能力の定着を目指す。	年度当初予定のアキルスタンダードを時差通学、分散登校等のコロナ禍対応に編制し直し、学校全体、教科毎に授業計画や評価方法等について、共通理解を図りながら、教科で育成すべき資質、能力の定着に取り組んだ。
	② アクティブ・ラーニング(以下、AL)や授業のユニバーサルデザイン化(以下、UD化)の実践を通して生徒の学習に対する興味・関心の向上及び基礎・基本の定着に組織的に取り組む。	ALについては、他者との協働等3密を避け、生徒が自ら能動的に取り組み、考える授業の工夫が授業担当者に見られたが、学校全体の組織的な取組には達していない。
	③ 新学習指導要領改訂を踏まえ、新たなカリキュラム策定に向け、教務部が示す計画に基づき遅滞なく決定を図る。	進行管理に遅滞はあったが、現行設置科目に対応する形で、エンカレッジスクールとしての基礎基本の定着を重視するカリキュラムが編成できた。
	④ 遅刻防止及び各授業のチャイム始業等時間厳守の指導を徹底する。また、挨拶の励行・「赤態度」指導等授業規律の徹底により、落ち着いた学習環境の維持に努める。	臨時休業、分散登校により、1年間の授業日数(実登校日数)が減ったため、例年との比較はできないものの、1年間の総遅刻回数や赤態度指導回数は減り、落ち着いた学習環境は維持されている。
	⑤ 学びの基盤プロジェクト研究協力校として、生徒に「読解力」「自ら学ぶ力」を身につける授業研究・実践を充実させるとともに、東京都の教育施策の研究に貢献する。	PT組織を編成し、16名の委員の内、11名が研究授業・研究協議を行った。次年度新たに3年間の事業としてスタートすることから、先進的な取組についての他校発信も検討しながら、全教科で組織的な授業実践を展開していく。
	⑥ 若手教員の研究授業及び研究協議会等を活用し、学校全体で授業力向上に向けた研修に取り組むとともに、校外の研修に積極的に参加し、多方面から授業技術の向上を図る。	若手教員の研究授業、学びの基盤に関する研究授業等を計37回実施した。また、コロナ禍の影響で予定されていた校外での研修は中止または動画配信等に変り、例年とは異なる形で研修となったが、受講対象者は適切に受講した。
	⑦ 読書活動を推進させるために、「ベーシックII」や「読書マラソン」等を活用し図書館利用率を高め、読書習慣を身に付けさせる。	総貸出冊数は、近年常に増加しており、前年度比104%となった。年間で本を借りない生徒の割合が1学年で前年度比増加した。図書館利用促進等の工夫が必要である。
生活指導 (自立活動)	① あらゆる教育活動を通して、良好な人間関係を築くうえで基礎となる、主体性、協働性、コミュニケーション能力を育成・向上させる。	3密回避のため、学級、または学年単位での集団行動に制限があり、学校行事の多くを中止せざるを得なかった。日常の授業をはじめ、学年単位でのスポーツ大会や新たな行事として「あきる野ウォークラリー」を企画・実施などを通して、主体性、協働性、コミュニケーション能力を育成・向上を図った。
	② 「赤態度」指導を通して、授業規律の徹底を図る。あらゆる教育活動において、時間厳守、挨拶励行の指導を徹底する。	赤態度指導は昨年度に比べ、減少した。授業や学年集会の開始時間厳守の指導や授業始業時の挨拶指導は組織的に取り組めた。
	③ 生徒相談委員会を定期的に開催し、必要な生徒に対し個別の教育支援に係る指導の充実を図る。また特別支援教育・自立支援コーディネーターが中心となり、特別支援教育や生徒理解に向けた研修を定期的実施し、教職員の合理的配慮に係る理解深化を図る。	生徒相談委員会は原則週に1回開催され、支援が必要な生徒の支援計画等が的確に立案、実施された。また、緊急的・個別的な対応が発生した際にも、特別支援教育・自立支援コーディネーター等が中心となり、迅速にケース会議が開催され、支援が実行された。特別支援教育等に係る委員会や会議はあわせて、120回実施された。※1
	④ 学校いじめ対策委員会を中心に、SCやYSWと連携を密にし、いじめの未然防止、早期発見・対応に組織的に取り組む。	定期的にいじめに係るアンケート調査を実施し、生徒の現状把握に取り組んだ。SCやYSW等による生徒面談を頻繁に実施し、生徒間関係悪化の未然防止や早期・継続対応に的確・適切に取り組んだ。※1
	⑤ 頭髪・服装等身だしなみ指導について、学校ルールを明確にし、保護者と連携を密にとり十分な理	進路実現や社会人として身に付けるべき態度・姿勢の育成に向けて、頭髪・服装等身だしなみ指導を実施していることを一層生徒に理解させる必要がある。電車通学者の車内マナーについて

		解を図りながら、必要に応じて「再登校指導」の実施を含め、毅然とした指導を行う。	地域の方からお叱りを受けることがあり、継続的な指導及び指導の工夫が必要である。
	⑥	交通安全指導を充実させ、自転車通学におけるルール、マナーを遵守させる。	定期的に登下校の通学路指導「マナーキャンペーン」を実施した。時に地域の方に通学マナーについてお叱りを受けることがあり、継続的な指導及び指導の工夫が必要である。
進路指導 (自立活動)	①	3年間の進路指導計画に基づく組織的、系統的な指導を実施する。進路ガイダンス、進路体験学習等の充実とともに個別、分野別の指導を更に充実させ、生徒の希望進路の実現に向けた意欲喚起を一層図る。	コロナ禍の影響により予定していたインターシップやガイダンス等が実施できなかったが、進路指導部、各学年が新たにコロナ禍でも実施できる形態・方法を企画し、実行した。3学年進路決定率は、100%を達成し、また新たに公務員、看護系志望生徒向けの講座を実施するなど、昨年度以上に個に応じた進路指導の充実を図ることが出来た。令和4年度から開始する進路を探究するための新たな「総合的な探究の時間」の実施に向け、次年度教務部、進路指導部において授業計画を再検討し、計画を策定する。※2
	②	全ての教育活動を進路実現に関連付けながら指導し、進路決定率の高水準を維持する。特に、既卒者就職先企業訪問による連携強化や新規企業の積極的な開拓により、生徒の進路希望実現の選択肢を拡げる。	進学3学年進路決定率は100%を達成した。内訳は進学54%、就職40%、その他6%。コロナ禍により、既卒者就職先企業訪問が未実施となり、また就職求人票受付が昨年比2割減となるなど、様々な悪影響が発生した。次年度もコロナ禍の影響が続くことを予想し、計画的な進路指導を展開する必要がある。
	③	既に中止された進路関係行事を再構築し、全学年において効果的な進路指導を組織的に実施する。	※2 進路指導①同様
	④	英検、漢検、数検等検定受検指導や情報処理等の資格取得指導を積極的に行い、生徒の自己肯定感、学習意欲、進路実現意欲の向上を図る。	漢検2又は準2級合格者数は増加した。英検2、準2、又は3級合格者数は減少した、全ての資格、検定合格者総数は126名となった。
特別活動・ 部活動	①	アクティブプラン to2020や東京都オリンピック・パラリンピック教育実施方針を踏まえ、体育授業・部活動・学校行事等の一層の創意工夫を行い、全校生徒の体力の向上とともに、帰属意識・自己肯定感の向上を図る。	3密等回避しながら、体育授業・部活動・学校行事等について可能な限りの工夫を実践した。オリパラ教育文化プログラム「文化の祭典」は昨年度に続き中止した。生徒の統一体力テスト結果は前年比若干向上した。更なる体力向上指導が必要である。
	②	年度当初部活動加入率を維持するための工夫を行うとともに、全部活動の活性化・充実を図る。特に文化系部活動による「文化の祭典」の充実に向け、一層の工夫を図る。	部活動加入率は71%であった。コロナ禍で充実した部活動が出来ず、生徒の部活動参加は低迷であった。「文化の祭典」は中止した。
	③	生徒の自主的な行動を一層支援し、挨拶運動や地域貢献活動等を通して、生徒会活動の更なる活性化を図る。	挨拶運動は継続的に実施された。地域清掃等の地域貢献活動も可能な範囲で実施できた。次年度は、生徒の活躍機会を多く創出するなどし、生徒会活動等の活性化を積極的に図っていく。 ※3
	④	地域貢献活動を通して、東京都オリンピック・パラリンピック教育レガシーとして「ボランティアマインド」の一層醸成を図る。	※3 特別活動・部活動③同様
安全・ 健康づくり (自立活動)	①	体育授業・部活動・学校行事等の安全管理を徹底しながら、生徒の安全意識の向上や危険回避能力の向上を図る。	コロナ感染を防止の徹底指導を通じて、生徒の安全意識の向上や危険回避能力の向上を図った。また、アプリを活用した、保護者、生徒向け緊急連絡等情報発信網を整備した。
	②	生徒の問題行動対応や特別支援教育について、特別支援教育及び自立支援コーディネーター、SC・YSW、他の外部人材等と連携しながら組織的な指導を実践する。	※1 生徒指導③④同様
	③	4月中止となった定期健康診断等について、適切な実施時期を改めて設定し、生徒の健康管理を適正に実施する。	時期をずらし、必要な健康診断を全て実施し、生徒の適切な健康管理を推進した。また、生徒個人情報管理を適切に実施した。
	④	セーフティ教室や防災教育・避難訓練等、実施内容を工夫し、生徒の健康や安全に対する意識の向上を図る。	SNSトラブルに係る講話や避難訓練等、3密を回避しながら、当初予定を変更し、実施した。
	⑤	学習等に落ち着いて取り組める現在の環境を維持するために、教室内の整理整頓及び美化活動を定着・習慣化し、安全・安心な学校を確立する。	総務保健部が中心となって行う美化活動や、担任等の指導による、日常の清掃活動により、学習に落ち着いて取り組める環境は維持されている。
募集・広報・ 地域活動 (自立活動)	①	近隣小中学校、都立高校・特別支援学校、あきる野市及びあきる野市青年会議所・商工会等との交流・連携を促進し、社会に開かれた教育課程を実践するとともに、特長ある先進的な教育実践を更	積極的な交流は、コロナ禍の影響により出来なかった。職員による中学校訪問や生徒による母校訪問も中止した。HP等インターネットの活用や郵送物等による、広報活動を行った。 推薦倍率3.0倍 分割前期1.23倍 分割後期0.87倍

		に充実させながら、幅広く募集広報活動を展開する。また、学校開放事業等を積極的に行い、開かれた学校づくりに努める。	特に、女子の応募者数が減じた。女子生徒にとっても魅力ある学校の特色づくりが急務である。
	②	HPの迅速な更新などを通して、外部に情報発信を積極的に行う。	HP更新回数は100回を超えた。また、YouTube等を活用した広報活動も行った。
	③	学校説明会、学校見学会、個別相談会を充実させ、広く秋留台高校の周知を図る。	学校見学会・説明会は3密回避の形で、分散型・動画配信型に変更した。来場者からは、安心して説明が聞けた等高評価であった。
学校経営・組織体制 (自立活動)	①	本校のこれからの学習・進路・生活指導や特別支援教育の在り方、生徒・保護者・地域のニーズに合致した教育課程の編成、及び中期的な学校の特色づくりを検討する。	令和4年度年次進行の新学習指導要領に基づく教育課程について編成を終了した。今年度入学者選抜応募者減について分析し、次年度早急に学校の特色づくり等を検討していく。
	②	主幹教諭、主任教諭、教諭各職層の職責を明確にし、業務を遂行させるとともに、学校経営指標、OJT診断基準、執務ガイドラインに基づき、学校経営、組織マネジメントの改善に努める。	職層毎に多くの職員は適切に業務ができた。今後の学校経営においては、学校評価における生徒、保護者、職員等の意見を踏まえ、中期的な学校経営及び特色づくりを早急に検討していく。
	③	全ての外部人材を有効活用することにより「チーム学校」を作り上げ、生徒への最適な指導を実践するとともに、教職員の働き方改革を推進する。	学習支援員をはじめとする多くの外部指導員、SC、YSW等を有効に活用し、生徒への手厚い丁寧な指導ができた。また職員の業務縮減の一端を担うことができた。
	④	全ての教育活動から体罰を根絶する。	今年度体罰事故はない。
経営企画室 運営・施設設備管理	①	自律経営推進予算、学校徴収金等について、適正執行・管理を実施するとともに、遅延のない予算執行や費用対効果を意識した予算要望のあり方を全教職員に徹底する。	経営企画室による、教員対象の予算編成の考え方、起案による学校の意思決定等の研修を実施するなど工夫し、遅延のない予算執行や費用対効果を意識した予算要望のあり方を全教職員に指導徹底できた。
	②	一般需用費のセンター執行を適切に行う。	センター執行率は60%であった。
	③	校内の施設の安全管理及び修繕を推進する。	施設・設備等の破損・故障については、経営企画室が迅速に対応し、安全管理は適切に実施できた。

(2)今年度の数値目標			
項目		数値目標	数値結果 (前年度比 ↑上昇 ↓下降)
①	学校評価における生徒満足度の向上	肯定回答80%以上	79% ↑
②	進路決定率の向上	100%	100% ↑
③	転退学者の減少	0名	22名 ↓
④	全ての教員による相互授業参観3回実施	100%	100%(新規項目)
⑤	検定合格者、資格取得者数の向上	前年度比110%以上	105% ↑
⑥	一年間の延べ遅刻回数の減少	前年度比90%以下	92% ↓
⑦	統一体力テスト本校生徒平均値の向上	前年度比105%以上	101% ↑
⑧	部活動加入率の向上	70%以上	71% ↑
⑨	文化の祭典 来場者数の増加	200人以上	中止
⑩	特色ある教育活動の発信数(アキルスタンダード配布数)増加	200冊以上	臨時休業により授業計画変更、アキルスタンダード発行中止
⑪	特色ある教育活動の発信数(学校視察来校者数)増加	200人以上	視察依頼は多数あったが、コロナ禍で原則視察受入中止
⑫	特別支援教育等に係る委員会・ケース会議等の開催	25回	120回 ↑
⑬	ホームページ更新の増加	70回以上	105回 ↑
⑭	一般需用費センター執行率	68%	60% ↓